



永遠の女神

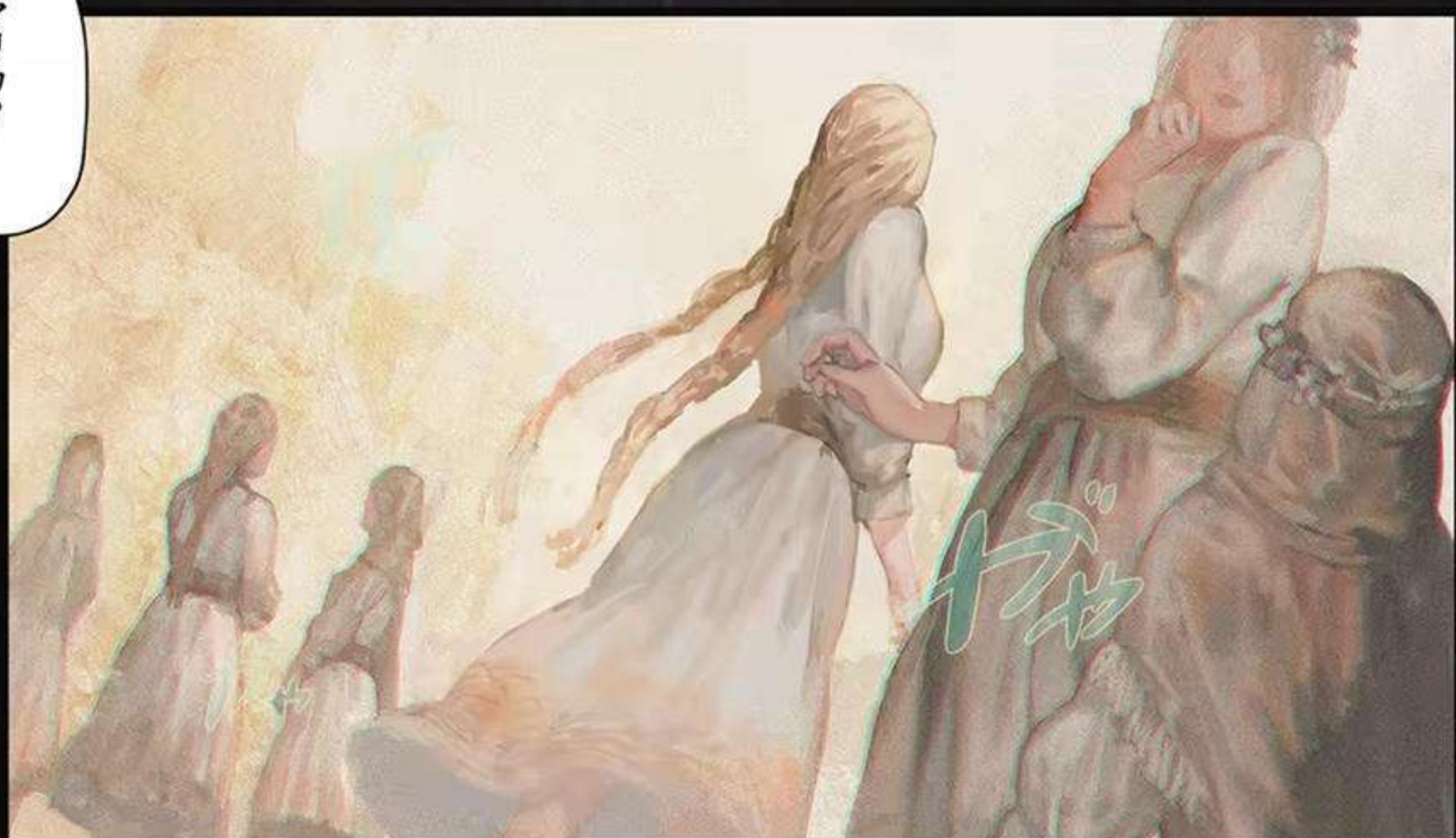




マリカ



マリカ？



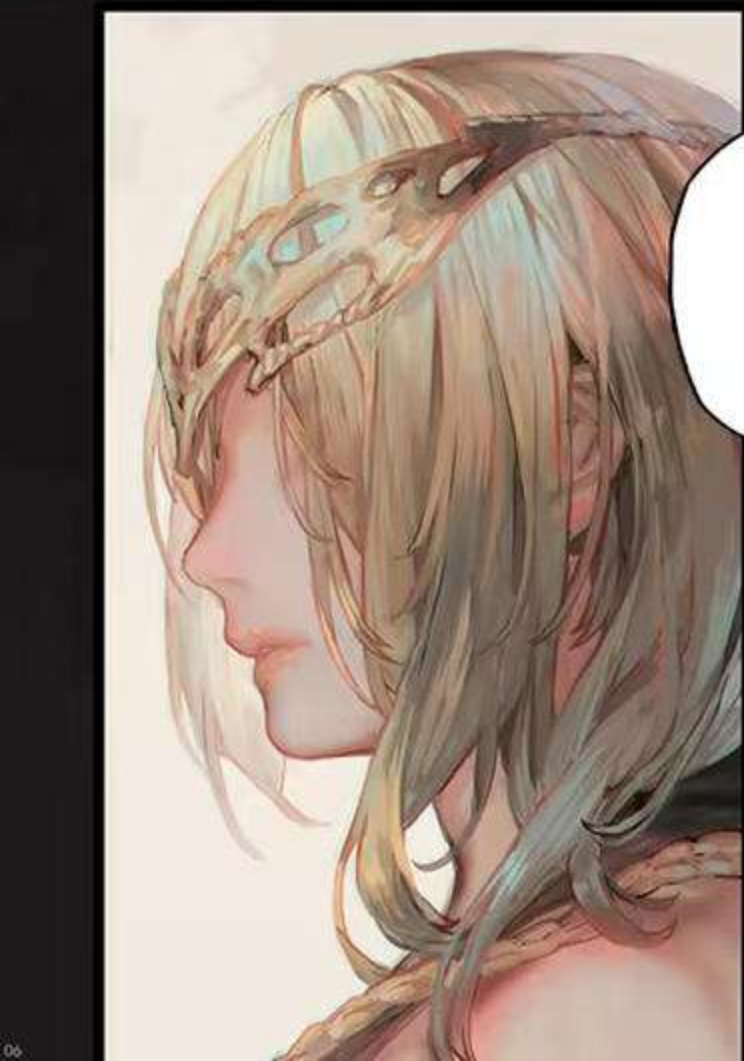


どうして
戻ったんだい？



大母…

こうなるのを
知っているんでしょう



マリカ？



いったい何を
手に入れたんだい？

故郷から離れ
同族を遠ざけて
までして

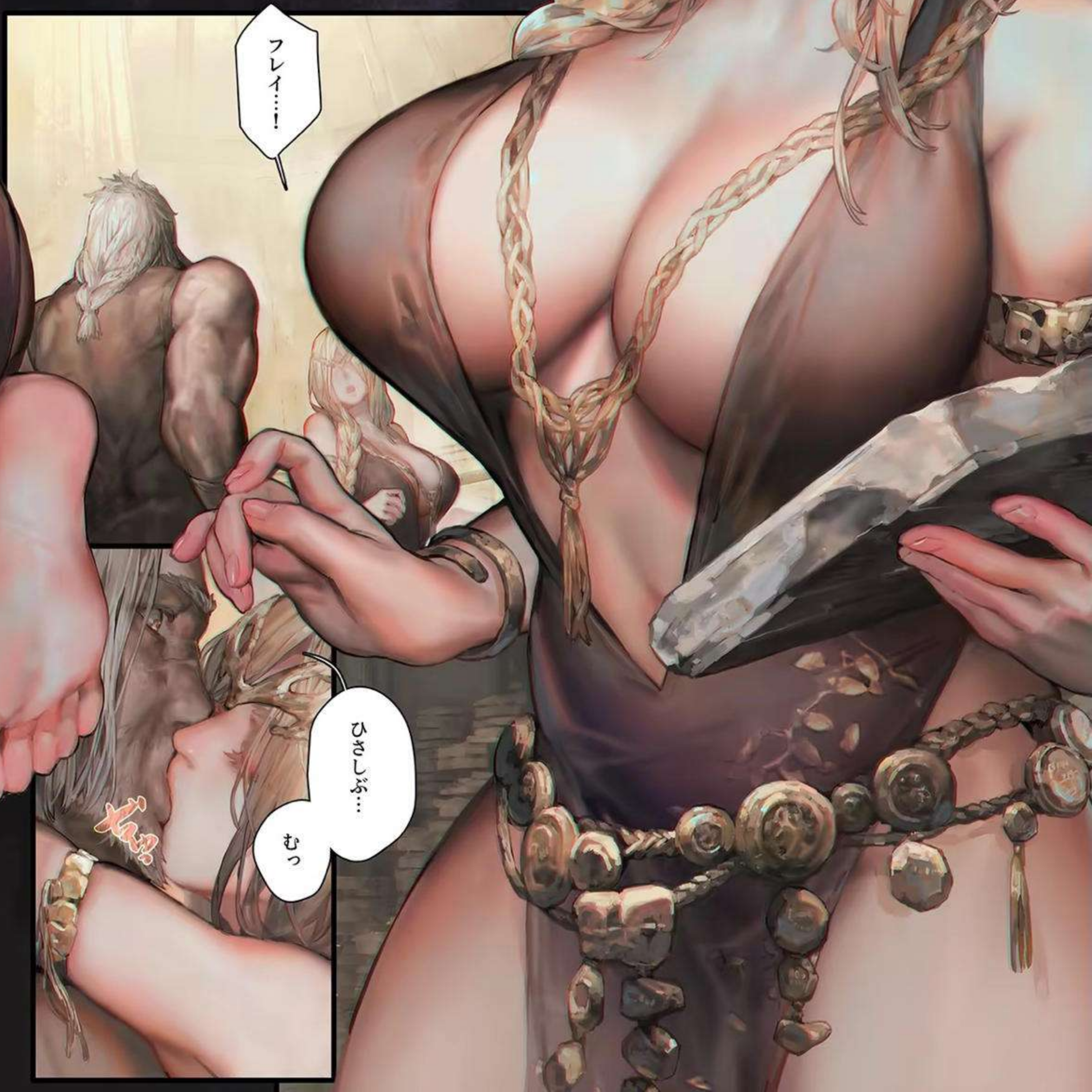
金色の星が降り注いだ日
私は狭間の地の神となった



どした？

マリカ？

真っ昼間に
ぼーっとして



フレイ……！

ひゃーん……

むっ

んん



首尾はどうだ？

ああ

リムグレイブを
獲ったよ

まあ

連中の頭もなかなか
骨がある奴だった

楽しそうだな

すっ



まあな

そっちこそ
大丈夫か？

聞いた話ではまた
魔術師どもとどんぱち
始めたんだらう？

俺たちに降らないのが
惜しかったけど

嵐の王とか
言うやつだっけ

案ずることはない
もう片付いておる

……



カーリア家は
しばらく大人しく
してくれよう

我が王の
出る幕もない

そうか？
ならいいけど

ってかさあ…

そんなに力強く
しゃぶると

おまえの愛らしい
肉壺に突っ込む前に
出してしまうぞ？

ほら見ろ！

お…
おい！

はぁん



ふふふっ

我が王はよその女と
戯れてないようで
安心したぞ

れろ

おめ
おめ
おめ

よろしい
褒美だ

我と褥を共にする
権利を与えよう

長らく泥まみれの
戦場に浸かる身だ

さぞ我の癒しを恋しくて
我慢ならんであらう？

ドク

ドク

我慢できないのは
おまえの方では…？

黙れ

我に対する
不敬は許さん

おめ
おめ
おめ

おめ

おめ

おめ



なあ
おまえ

あ…
いや

はあ
はあ

慈悲深き高貴たる
女神マリカ様？

ちょっと
頼み事が…

俺はもっとガキを
作りたいんだけど

どうだ？

ほう…

我が王はなんて貪欲

すでに我と一人の子を
育っているが不満か？

下らん言い回しはよせ
用件を言うがいい

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ



ったりまえた！
男ってのはな
愛する女と
子供をいっぱい
産めたいもんだぞ？

なあ？
カミさんよ



ふん
殊勝な心がけだ

だがその言葉は
戯言まで留まるなら
決して許さんぞ？

父上…？

おう！
ウインか！

どうした？

父上が遠征から
お戻りになったと
聞いたから…

ならぬぞ
王はまだ休養が…

悪いなあ

父ちゃん留守にしてばかりで
おまえと遊んでやれなくてよ

しばらく家にいるからさ
それで勘弁してくれるよな

よーおし！

何がしたい？
狩に出るか？

それとも
捧闘見に行くか？







これでいいんだ

我は……!

わた……

フレイ……



もう済んだか?



忌み子は
祝福を受けない

たとえ王家の血を
継ぐものにしてもだ

おまえはそれを
守るべき立場にいる

だから後は
任せてくれ

俺たちの子供はあんな
暗い所で死なせはしない



ただ母親に会えないのが
きっと寂しいだろうな

さあ

早く戻ろうぜ

遅れると

指読みのばーちゃんが
ギャギャ騒ぎ出すぞ



ああ……

その顔をやめろ

我が子を下水に捨てた
ぐらいで動じることはない

全ておのれの権威をなす
ための礎ではないか

今まで躊躇なくやってきたんだろう
なに今更悲しいふりをしてるんだ





他人の痴話喧嘩に
口を挟まないでくれる？

ダメな夫を
首にただけよ

しょうもない
嘘をつくな

俺はお前の半身
であることを
忘れてはなるまい

ゴッドフレイが
お前の代わりに外で

何か答えを見つけるを
期待しているなら

貴様は筋金入りの
愚者と認めよう！

何する！

放して！

度々逸脱した
行いのせいで

二本指はお前に
愛想を尽きかけている

だからやつは
保険を欲しがる

本気？

そんなの子を
産めって言うの？

争うの道具として
殺し合う未来が
目に見えてるのに

どの口が言う！

今も敬愛する
母のために
人知れずの影で

休むことなく
戦い続ける息子も
いるのだぞ！



力に溺れた過去の自分を
後悔しようが嘆きようが
お前の勝手だ

これは全ておのれが
始めた事を忘れるな！





やめて…!

いつまで指野郎の
言いなりになるつもり?

アレはただ
神になりました
紛い物にすぎない

それに雫が枯れた
黄金樹はもう長くない

あんたもよく
知っているのに!

ふざけるな

指ごときに
関係ない!

貴様が途中で
投げ出してこなければ

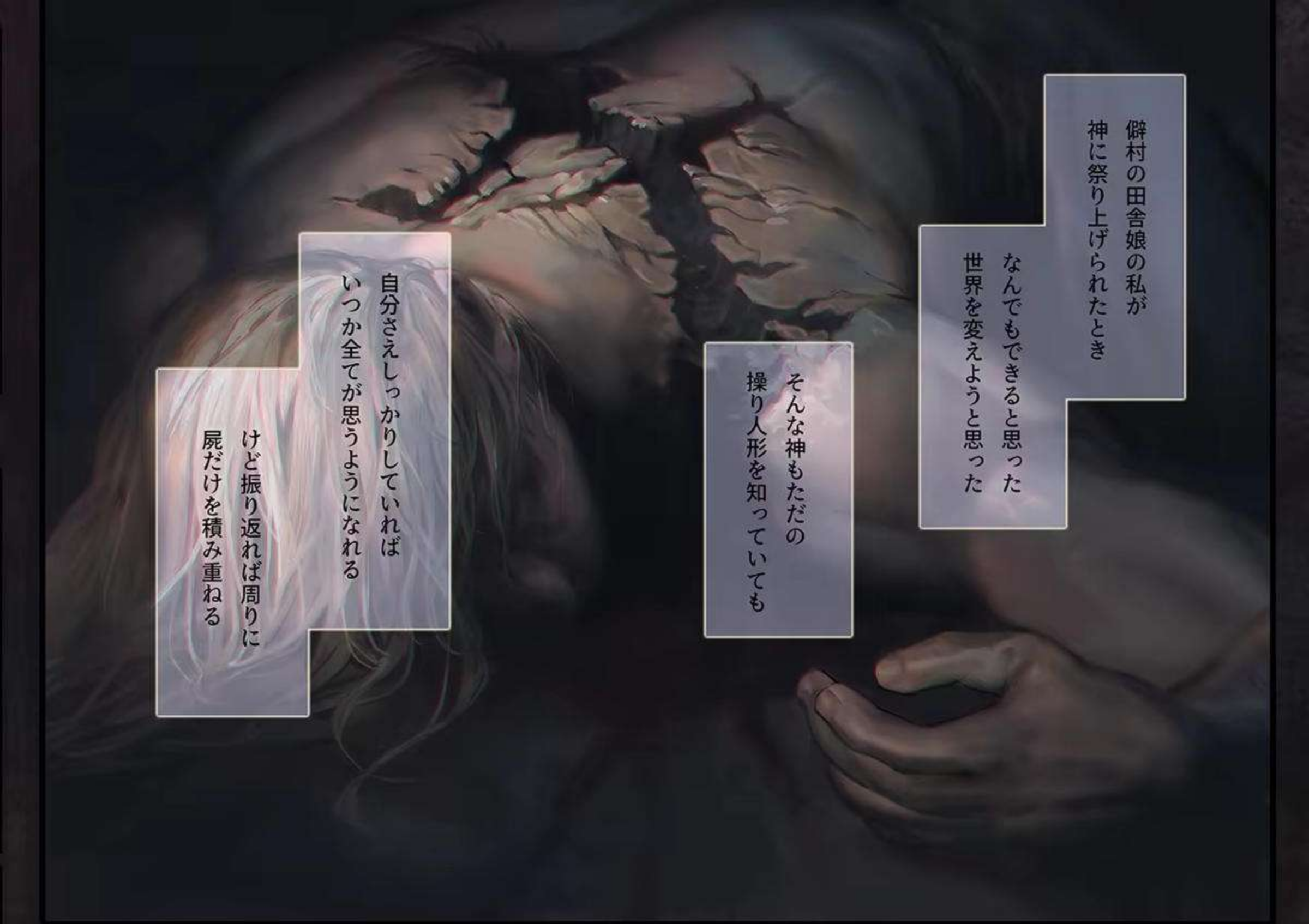
俺もレナラを独り
置いていなくて済む

確かに黄金律は
穴がある

だが俺が完璧に
してやればいい！

結局いま貴様の尻拭いを
させられる羽目になった！

それがどうした？



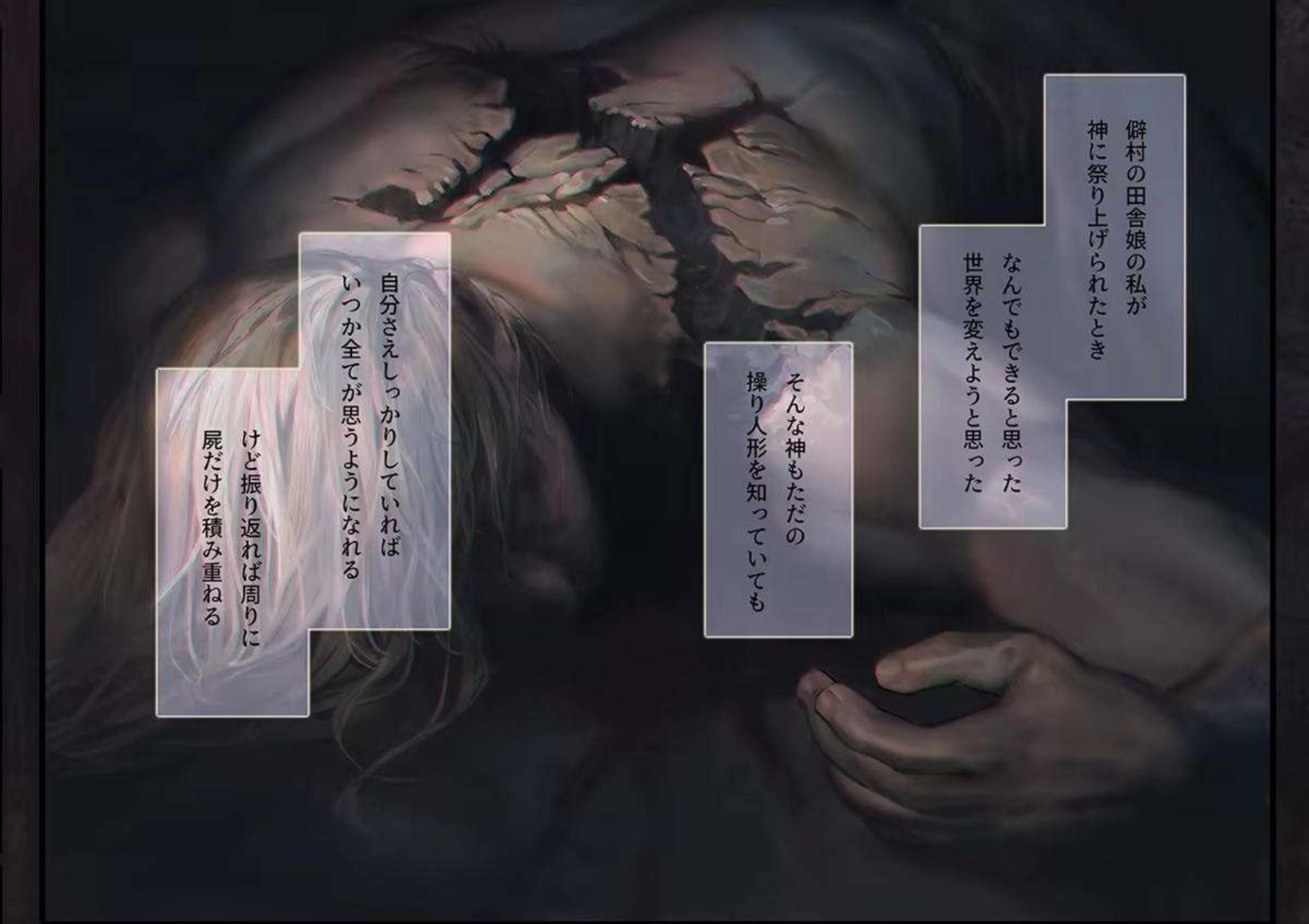
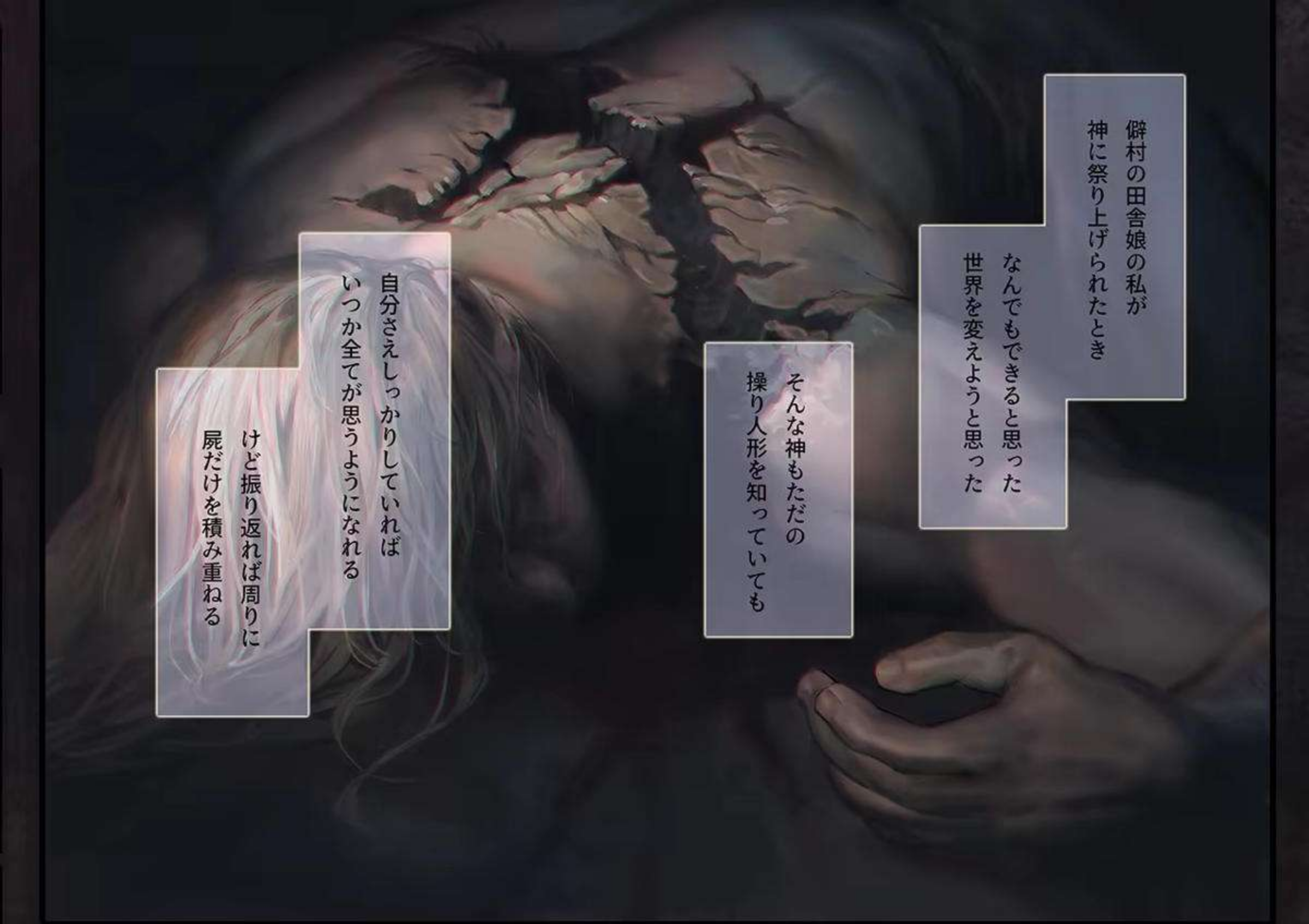
僻村の田舎娘の私が
神に祭り上げられたとき

なんでもできると思った
世界を変えようと思った

そんな神もただの
操り人形を知っていても

自分さえしっかりしていれば
いつか全てが思うようになれる

けど振り返れば周りに
屍だけを積み重ねる



これから何を
捧げればいい？

何人を生贄に
すればいい？

私の代わりの存在が出たら
それを変えられると言うのか？

偽りの幻影を追い求めるため
なんの犠牲も厭わぬの世界が



これがお前の望みか？

同胞を裏切り

民を裏切り

自分の子供たちも
裏切る拳句

私の望みは

神なき世界だ！

やぶれかぶれに
なるだけか？

違う





まさかお前は

祝福なき者に
賭けたとは



いいのか？

力なき者が玉座に座れ
廃退して何もかも
壊れかけていくか

律そのものが持ち去られ
先が見えぬ混乱になるか

はたまた全てが
灰になるまで焼き尽くされる
かもしれんのだぞ？

